

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第18回:2022年はどんな年? 「始め、備える年」

2022年1月13日配信

【ポイント】

- 2022年は、「始め、備える年」
- ・「コロナ共存元年」を始め、
- ・多数の「重要選挙」の結果に備え、関係を始め、
- ・2023年を含む将来のための「準備の年」

【本文】

- 2022年は「コロナ共存元年」⇒コロナとの共存を始める
 - ・コロナは無くならないが、より良く対処できるようになる⇒経済回復に確実に繋げる
 - ・同時に、過去2年の教訓を忘れない
 - サブライチェーンのチェックと強靱化
 - テレワーク、オンライン会議等、生かせるものは生かす
 - 教育のオンライン化など、遅れている部分のキャッチアップを継続・強化
- 2022年は「重要選挙の年」⇒結果を注視し、次の手に備え新関係を始める
 - ・3月;韓国大統領選挙(5年、1期のみ)
 - 文在寅大統領は交代⇒与党継続(イ・ジェミョン候補)か保守交代(ユン・ソクヨル候補)かで日韓関係に大影響、交代を契機に、ハイレベルの対話模索?
 - ・4月;フランス大統領選挙(5年、連続2期まで)
 - マクロン大統領再選目指す(再選の可能性が高い)
 - メルケル後の欧州・EUリーダーシップの行方に影響(2022年前半仏がEU議長国)
 - ・5月;フィリピン大統領選挙(6年、1期のみ)
 - ドゥテルテ大統領は交代。同大統領は、親日+対外発言に比べ親米経験不足の候補が当選する場合には、出足に注意
 - ・7月/6月;日本参議院選挙
 - 岸田政権が長期安定政権になるかどうかの試金石
 - 国家安全保障戦略改訂、憲法改正などへの影響を注視

- ・10月;ブラジル大統領選挙(5年、2期まで)
 - 右派ボルソナロ現大統領は再選目指すも、支持率低迷(コロナ、経済低迷)
 - 左派ルラ元大統領は有罪判決取り消しで復権+リード
 - 選挙結果次第で混乱=ブラジルの将来不透明感一層アップ
- ・11月;米国中間選挙(下院2年。上院6年、2年毎1/3改選)
 - バイデン政権第一期候補案の国政運営に大影響。今後盛り返せるかは経済次第
 - CPTPPなど、外交課題への対処能力にも大きく影響
- ・秋;中国共産党大会(5年に1度。党総書記5年、従来は2期今後は無期?)
 - 習近平政権の第3期入り。アジェンダセットはどうなるか?
 - 「次」の候補者は? 日中国交正常化50周年(72年9月共同声明)への対応は慎重に検討

■2022年は将来に向けた「準備の年」

・安全保障に「骨太」に備える

「国家安全保障戦略」の見直し=2013年12月17日策定以降初めて

「防衛計画の大綱」もそれに合わせて見直し

敵地攻撃能力等の新能力の扱い、経済安全保障、防衛費の在り方、見直し頻度等

・具体的挑戦に備える

「中国の核戦力増強」に備える=8月には5年毎の「NPT再検討会議」

⇒中国の核軍拡への具体的対応検討の契機(既存の核兵器数をこれ以上増やさない「凍結」といった分かりやすく共感を得やすい新しい目的を設定し、それに中国以外のできるだけ多くの核兵器国の合意を得て、中国に最大限の圧力をかける方策を検討)

「朝鮮半島」を巡る動きに備える=挑発行動加速化の可能性+米中の共通課題

「台湾有事」防止に備える=防止のための最善策は抑止(よりよく備えること)

⇒日米間の準備調整+CPTPPなどの生存空間拡大+誤解を防ぐコミュニケーション

・2023年に備える

2023年は重要な年=インドネシアASEAN議長国+日本G7議長国+日ASEAN50周年

+米国APECホスト国

2022年はインドネシアG20議長国⇒ASEANに何を望み、何をするか+米国のインド太平洋地域への関与を具体化(CPTPP?)のために、要人往来の機会を活用して準備

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先:りそな総合研究所 アジア室 石橋修三

メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp